

令和3年度全国高校選抜（熊本大会）審判員報告書

C3 審判長 氏名 前田節夫

1. 採点上打ち合わせた事項

- (1) 審判することの意味や意義について
- (2) 審判員宣誓の内容を実行
- (3) 審判業務に関する注意事項について
- (4) 映像による審判研修会の実施

ア 採点競技に則り、構成と実施の採点研修及び採点の検証確認

イ 審判のあり方について

審判員としての責任と誇りを持って、モラルを遵守すること。

ウ 映像による採点練習時間とそれぞれの確認時間を多く取る。

2. 採点上起こった事項とその処理

- (1) 採点入力システムにトラブルが発生するが、担当者の対応で競技進行に影響は無い。
- (2) 演技中の服装に乱れが生じたが、減点とせず競技部長注意とする。

3. その他特記事項・意見・感想等

コロナ禍の大会実施であり、感染予防対策等に大会関係者及び大会参加者の努力に感謝と感謝を申し上げます。

また、全国的なコロナ禍の状況で練習不足による事故等を心配しての審判業務でしたが、大きな事故もなく安堵いたしました。選抜大会の開催時期とも関与しますが演技の完成度に未熟さを感じる選手や団体チームが多くみられました。男子新体操の競技人口がより増加される事で解消されると思われませんが、まだ時間がかかると思いました。特に団体競技では、選手を6名揃える、レベルを揃える等の難しさと監督のご苦労が見られました。

久しぶりの選抜大会でしたが、特に印象に残ったのは伴奏音楽の選曲がとても良いと感じ、夏の高校総体に大いに期待できると思います。

最後になりますが、役員の皆様や実行委員会や補助役員の方々のご尽力により素晴らしい大会が無事終了できたことを心から感謝申し上げます。

構成主任審判員 安福康夫

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 個人競技

- ・難度認定だけにとどまらず、全体としての構成の難しさを見極めること。
- ・演技中の手具操作の多様性と難しさを見極め得点に反映させること、それが身体の運動とともに自然に行われているかを評価し、得点に反映させること
- ・十分に仕上がって選手ばかりではないので、演技内容を慎重に見て判断する必要があること
- ・ルール上、実施に影響される部分があるが、それ以外の部分は構成上の難易度をしっかりと見極め、実施に影響されすぎないこと。

(2) 団体競技

- ・徒手系・転回系ともに団体競技の見せ所である同時性を組み込んでいるチームを評価していくこと
- ・時期的に選手間のレベル差が大きいことが予想されるので、チーム全体として完成度が高いチームを評価していくこと。

- ・6人ではないチームが複数あるので、難度の取り方の確認と人数に影響されやすい採点項目を再度確認すること
- ・転回系の同時スタートや2段スタートの価値を見極め、単に要素を満たすためだけのスタートになっていないか判断し評価する
- ・徒手体操の組み合わせやその自然性を見抜くこと、自然性に欠いた動きはあまり高評価としない
- ・転回系と徒手系のバランスに偏りがないかどうか確認する。
- ・隊形変化のバリエーション、移動のバリエーションが単調なものになっていないか見極め、フロアの空間使用が適切に行われているか判断する。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

緊急事態宣言発令により、全国的に冬場の練習を十分に行えなかった中、本大会出場まで仕上げてきた全チームの努力とご苦勞に感動した試合でした。

団体競技では、例年のレベルに達しているチームは多くなく、十分に力がついていない選手も見取れた。演技内容に関しても本来目指していた技からレベルを落としたのであろう内容が多く、構成上の見極めが難しい大会でした。ただ、その中でも上位のチームは高いレベルを維持しており、その努力には頭が下がる思いでした。

個人競技では、上位の選手は拮抗しており、ますます高いレベルでの争いとなった。動きの良い選手、技の技術が高い選手など、それぞれの選手に個性があり今後の成長が楽しみである。来年度からの新ルールに対応した演技構成をしている選手もおり、次の総体に期待が残りました。

最後になりましたが、コロナ禍のなかで大会運営をしていただいた実行委員の皆様、関係役員の皆さま、補助役員の皆様のおかげをもって大会が無事に終了できたことを感謝しております。本当にありがとうございました。

実施主任審判員 荒井暁二

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 団体・個人共通

- ・徒手系運動の質に関する部分(A減点の部分)について、基本的運動ができているか、(緊張と弛緩、重心の引き上げ、運動の幅等)また、四肢の制御等、熟練度等について確認。
- ・コロナ感染症の影響もあり、個人、団体ともに練習ができていない、また、出場ができないチームがあり繰り上げて出場するチームもあり下位層の選手が多数出場する事が考えられ、採点に苦慮する事を考え映像での減点確認を行い、採点に大きな違がないよう確認。
- ・未熟な選手が多く出場すると想定され、減点をした後、作品全体としての徒手の部分と出来栄を考える事を確認。

(2) 団体競技

- ・6人、全体の運動の質をみて、平均化してAの部分の減点を行うことを確認。(1、2名の選手が全くできていない事が想定される)
- ・誇張された演技内容が多い場合のA減点の確認。
- ・転回系、徒手系のミスをした時の減点幅の確認。

(3) 個人競技

- ・基本的な手具操作ができていないか、手具の特性がいかされているか、身体との一体感はあるか等の確認。
- ・運動の質をきちんと見る事、ミスがない、きれいにできている等でごまかされないよう確認
- ・持ち方・投げ受けの処理の仕方での減点に対する共通理解を確認。
- ・シェネやタンブリング時の軸ぶれ及び膝割れ、着地姿勢、空間姿勢の減点をしっかりとる事を確認。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・服装について、演技中に装飾用のアクリルプレートの縫製が外れている選手がいた。演技中の服装の破損は減点ではないため、その演技の採点には影響していないが、そのまま使用することに危険を感じたため、選手に警告をした。

3. その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体競技

- ・コロナ感染症の影響が大きいと考えられるが、ほとんどのチームが練習不足であることを、また、4名、5名で参加のチームも多く部員不足や未普及の競技であることを感じました。
- ・演技全体の完成度が低く(ミスが多い)、無理なタンブリング多く未完成のままでした。また、運動の質に関する部分でもほとんどのチームができていない、そして、チームの中に1名ないし2名のレベルの低い選手がいるためA減点に苦慮し、審判員の点数にばらつきがあり、協議することが多くありました。

(2) 個人競技

- ・運動の質に関する部分で未熟な選手が見られ基本的運動について練習が必要。
- ・選手の能力に合ったタンブリングをする事と、タンブリング中の手具操作ができていない。
- ・手具操作が未熟で演技の流れが切れてしまい、手具と身体の一感がない。
- ・手具の投げ受けの姿勢が悪く余裕がない、また、ロープはゆるみが多く、上半身が仕えていない。

(3) 全体的所感

- ・このコロナ禍で今大会が成功裡に終わられたことは、関係者の皆様の並々ならぬご支援のおかげであり、深く感謝と敬意を申し上げます。
- ・残念ながらコロナの影響や怪我等または部員不足で大会に参加できなかった高校生に今一度、夏の全国総体等で活躍できる場ができるように皆で協力していきたいと思ひます。